

令和6年4月1日

futbol y vida

Poco a poco ...
boco y boco ...



サヨナラ令和五年度、コンニチハ令和六年度
四月は公式戦三昧で楽しみ満載!!

令和六年度、新シーズンがいよいよスタート!!

長い鍛錬期&春の“武者修行”の成果を公式戦に全て出す!!

片倉山の桜満開（三分咲き？）とはなりませんでしたが、令和六年度がスタートしました。今日から一つずつ学年は上がります。三年生は最上級生としての自覚を、二年生は学校の中核を担う立場であるという自覚を持って、新年度を迎えて欲しいと思います。そして、一週間後には新入生（53期）が入学そして入部してきます。合格発表後から既に練習参加しているもの、春合宿に参加する志の高いものもいます。新チームは、50期生を超えるためにチーム一丸となって乗り越えて欲しいと思います。



<桜もこれから満開となる!!>

新シーズン直ぐにスタートする公式戦に向けて武者修行で「心技体」のスキルアップを目指す!!

現在チームは、学年末考査後から春休みまでの期間、トレーニングマッチを経て、春休み恒例の武者修行の最中です（前半戦終了）。新チームはTRMでなかなか勝てずに苦しみ、この時期特有の“鍛錬期”を三月まで継続することになりました。冬のトレーニングでは個々のベースの底上げを図っています。新チームは個々のレベル差が顕著なので、春までにベースをどこまで広げられるかが、チーム力を上げる上で重要です。片倉サッカー部恒例となる“春の武者修行”を実施。3月25日の湘南フェスティバルから土浦遠征試合までホームグラウンドを離れて長いロード(away game)に出かけてきました。年間を通して8割以上はホームグラウンドでTRM（公式戦も含めて）を行うことができるので、通常、子どもたちはゲームだけに集中できる環境にあり、精神的に物凄く楽であり、これは片倉高校サッカー部のストロングポイントでもあります。更に子どもたちの成長、取り分けメンタリティの強化を目的に敢えて長期休業中は自分たちのグラウンドを離れてアウェーの厳しさを課すために武者修行と称してTRMを計画します。片倉高校サッカー部では「ゲームこそが最高のTRである」とTRMを位置づけているので、今年の春の武者修行だけでも15ゲームを行い、子どもたちは「心技体」とともにスキルアップすることができる貴重な時間となります。



Awayゲームでは
学ぶことが多い



有意義な春合宿で “New K’s football style” の更なる“進化”を目指す!!

恒例の春合宿である土浦工業高校での合宿が、片倉高校サッカー部では初めて、私としては久しぶりに戻ってきました。昭和に立てられたこの宿舎（木造）には、エアコンはありません。さすがにお風呂こそは近所のスーパー銭湯に連れていきますが、トイレは和式型、布団はレンタル毎食事の準備や後片付け、洗い物、掃除、ゴミ捨て（分別）と普段家庭ではやっていない？ことを体験していきます。片倉高校サッカー部の合宿ではサッカーに集中しながら多くのことを学んでいきます（まだまだ、子どもたちはスマホに依存する生活場面が見られますが…）。同じ目標を持った子どもたちがその達成に向かって努力し、寝食を共にして生活をする。特に、年度末の春合宿は、新シーズンに向けてチーム力アップが目標ですが、チームの強化や個々のレベルアップを図ることや一年間を振り返り反省や課題、新年度に向けての目標を今一度確認し、チームの結束力を高めるという大切な目的があります。そして、見失いつつある人と人との繋がりから生まれてくる大切なものを、集団生活を通してしっかり見つめ直す社会的な教育の役割もあります。現役の高校生も四年間コロナ禍の中で学校生活（中学～高校）を過ごし、多くの規制・制限の中での生活が子どもたちに対し過保護で過干渉な対応を生み、無重力状態を引き起こしているように見えます。でも、社会の厳しさは変わっていません。今こそ適度な負荷をかけた刺激が全般的に必要なかと一昨年度の合宿を通して子どもたちの成長を見て改めて不思議な魔力を強く感じています。合宿はまさに子どもたちを育てる場です。



<仲間と同じ釜の飯を食べる、青春は一度、人生も一度!!>

さて、遠征先でいつも大変お世話になる木内先生には、2000年の三宅島噴火で東京に避難し部員が少ない中で京華高校と合同チームを組み土浦に遠征した時からお世話になっています。早いもので来年で四半世紀となります。私が苦しい時、また今回の選手権のように勝った時に必ず連絡を頂きます。生徒だけでなく私も木内先生には多くのことを学びそして支えてもらいました。昨年度、茨城県の教職を任期満了で退職されて、現在は時間講師をしながら前任校の竹園高校の外部指導員をされています。木内先生が笛を持ってグラウンドに立ち続ける限り、いつまでも私のチームは土浦フェスティバルに参加します。

<After the Game>

2024年度がスタートしました。新チームは50期生の成績「都ベスト8」という重い十字架を背負って、この冬は苦しみもがいています。TRMもなかなか勝てずに「片倉史上最弱チーム」と私に言われています。もちろん、これはグラウンド上だけではなく、学校生活や日常生活に隙が見られ指導を受ける場面も多く、マルガリータが増えました。言葉より、形よりも行動で示して欲しいものです。間もなく新入生が入学してきます。後輩は先輩の背中を見て育つので、年齢が上というだけではなく、人として信頼される先輩になるとともに、部活動だけではなく学校内に於いてもしっかりとプライドと自覚、責任を持ち生活をして欲しいと思います。



<土浦フェスティバル最終日>